

アンコール周辺地域の持続的な発展に向けて！

チア・ノル
JST 代表

拝啓

時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

1994 年以来、カンボジア、特にアンコール・クラウ村の発展のために、皆様から多大なご支援をいただきましたことを感謝申し上げます。

思い返せばこの 10 年間、道路、橋、小学校の建設をはじめ、村祭りの支援、村人とプノンペンの大学生との交流会など、さまざまな活動を行うことができましたが、最近、村人の生活も少しずつ向上してきたことが実感できるようになりました。

今までご支援くださいました皆様には、この 10 年間の取り組みをここで報告申し上げるとともに、2005 年 4 月、カンボジアの NGO として登録申請し、この 6 月に正式承認を受け、新たな目標に向けて活動を始めましたことをご報告申し上げたいと思います。

皆様からいただいたご支援を、より持続的に活用するためにはどうしたらよいか、ということは、近年、強く感じるようになったことでした。例えば、小学校も道路も、一度建設すれば終わりというものではなく、毎年のメンテナンスが必要となってきます。その費用は、生きていくことに精一杯の状態である村人が負担できるものではなく、だからといって、安易に支援金に頼ることも、最近、疑問をもつようになってきました。さらに、村の周辺には、道路がないために子供たちが学校に通えなかったり、保健所がないために安心して生活できないなど、地域住民の要望はまだあります。

そこで、ひとつの試みとして、まず、アンコール・クラウ村に、窯業、織物、石彫などを中心とした職業訓練施設を建設することを考えています。そして、そこで生産された製品の販売により得た収益は、地域の公益として、地域に必要な道路、学校、保健所など、生活環境を整備することに使用したいと考えています。これにより、地域の人々がより自立して生活できると同時に、地域の持続的な発展を促すことを期待しているところです。

幸い、1994 年から 10 年間、カンボジアで窯業従事者育成と織物業従事者支援を続けてこられた石川悠子さん(YUYU 工房主宰)が、NGO 活動に協力してくださることになりました。また、アンコール・クラウ村には、JSA(日本国政府アンコール遺跡救済チーム、1994 年から活動)で遺跡修復技術者として従事してきた村人が多数おり、石の取り扱いに慣れた技術者を中心に、石彫技術の職業訓練も始めたいと考えています。

現在、シェムリアップのホテルなどから、クメール陶器やクメール織物の注文が増え始めたところで、早急に訓練校を開校する必要がある状態ですが、今後の販路とデザインなど製品のアイデアに関しましては、ぜひ日本のサポーターの方にご協力をお願いしたいと考えています。

カンボジアの地域住民の自立と地域の持続的な発展を目指すこの試みが、まずアンコール・クラウ村で成功し、少しずつ周辺地域に広がっていくことを願っています。

敬具

2005 年 6 月吉日

チア・ノル

1966 年カンボジア、シェムリアップ生まれ。ポルポト政権下で父と 2 人の兄が殺され、13 歳の時、難民として日本に避難。以後日本で育ち、1994 年中央大学経済学部卒業。1994 年より母国カンボジアにて日本国政府アンコール遺跡救済チームに参加。



JST への期待

中川 武
早稲田大学教授
日本国政府アンコール遺跡救済チーム (JSA) 団長



アンコール遺跡は、2004 年に「ユネスコ世界遺産危機リスト」から除外されました。アンコールでの近年の話題は、「周辺地域の持続的な発展」がもたらす、同慶の至りではありますが、喜んでばかりはいられません。カンボジアの密林の中には、99.9% の崩壊したままの遺跡たちが、今もなお救いの手を待っています。カンボジアの人たちは自らの手で修復できるようになったのでしょうか。周辺住民は自らの足で立ち、集落は美しくなったのでしょうか。困難ではありますが、本当の創造的な課題はこれからです。

チア・ノルさんは、JSA が正式に活動を開始した 1994 年より、JSA 常駐団員として、現地カンボジアと日本人専門家の間の橋渡しをしながら、保存修復活動に携わってきました。JSA 現場作業員の多くがアンコール・クラウ村から来ていたこともあって、村人の自立を助ける活動をチアさんは率先して行ってきました。チアさんはその活動をより本格的に展開するために仲間たちと NGO を立ち上げました。JSA の 10 年半の活動が一つの節目を迎えた今、私たちが国際文化交流の実りをより豊かなものにするために JST に協力していきたいと考えています。何よりも、JSA の歴代団員にはアンコール・クラウ村が好きなおの人が多くいました。これは私たちが大事にしたい財産です。

カンボジア連絡先

住所：GROUP4 PHUM TROPEANG SES KHUM KOKCHORK
SIEM REAP PROVINCE, CAMBODIA
メールアドレス：JSAC@online.com.kh 担当：小出陽子

日本国内連絡先

早稲田大学理工学部建築学科中川研究室
住所：東京都新宿区大久保 3-4-1 55 号館 N 棟 8 階 10 A
電話：03-5286-3575 FAX：03-3204-5486

JST の活動へのご協力をお願い

活動にご賛同いただける方は募金のご協力をお願いいたします

■カンボジア振込先

銀行名：CAMBODIAN COMMERCIAL BANK
LIMITED SIEM REAP BRANCH

口座名：JSAC

口座：802-03-2 04737-9

■日本国内振込先

振込先：郵便貯金 ばるる

名義：ジェイアンドエスエーシー

口座：記号 10010 番号 97367631

JST

Joint Support Team
for Angkor Preservation and Community Development

アンコール遺跡の保存と周辺地域の持続的な発展のための人材養成支援機構

アンコール周辺地域の 持続的な発展に向けて！



2005 年 **12** 月
活動のご案内

1. NGO 設立に至る流れと今後の活動

1994年～

日本国政府アンコール遺跡救済チーム (JSA) の活動
 ・遺跡修復技術の指導
 ・石材加工技術の指導
 ・農村でワークショップ

石川悠子の活動
 ・窯業従事者育成
 ・織物業従事者支援
 ・2年間の JICA シニア ボランティアとしての実績

チア・ノルの活動
 ・クラウ小学校の建設と教材支援
 ・クラウ村の村道建設
 ・クラウ村の橋建設
 ・クラウ村の集会所建設



職業訓練所予定地 (2005.4)



アンコール・クラウ村と周辺の地図

2005年～

カンボジアローカル NGO として登録済 (2005. 6)

JST

Joint Support Team for Angkor Preservation and Community Development
 アンコール遺跡の保存と周辺地域の持続的発展のための人材養成支援機構

- ・アンコール・クラウ村に、地域住民の職業訓練と教育のための施設建設予定地として約3haの敷地を確保
- ・ロリュオスにて、織物業と窯業の職業訓練開始
- ・12月、石材加工業従事者訓練所の建設予定
フリースクール建設予定

2. NGO としての活動の方向性

職業訓練所で製品を作る



織物業従事者職業訓練

窯業従事者職業訓練

石材加工業従事者職業訓練

商品は原則としてチャリティ販売



左：織物
 (クローマ等の綿の特殊織り)
 右：焼き物
 現在デザイン開発中です

公益活動に役立てる

公共施設の建設やメンテナンス
 アンコール遺跡のための石工技能者の養成
 子供たちへの教育支援
 その他アンコール周辺地域の公益活動
 同志たる他の NPO との協力、連携

3. アンコール・クラウ村での今までの主な活動

- ① 小学校関連の支援 (fig.1)
- ② 村道の建設 (fig. 2)
- ③ 橋の建設 (fig. 3)
- ④ 村の集会所の建設
- ⑤ 村のお祭りを支援
- ⑥ 村の実態調査
- ⑦ プノンペン芸大生と村人とのワークショップ開催 (fig. 4)
- ⑧ 石彫製作の指導 (fig. 5)
- ⑨ 日本からの観光客に村を紹介 (fig. 6)
- ⑩ その他
 - ・1998年秋、後藤小学校の先生10名に1年分の給料を寄付
 - ・道路の補修、小学校の塗装メンテナンス

4. 組織紹介

代表 顧問
 チア・ノル
 赤澤泰 (樹鴻池組, 2005年4月まで JSA シェムリアップ事務所長)
 サオ・サム (JSA アンコール遺跡修復技能工棟梁・クラウ村世話役)
 田中博品 (樹アジケン代表, 名古屋中ライオンズクラブメンバー)
 中川武 (早稲田大学・教授, 建築史家)
 ロス・ボラット (APSARA・副総裁)
 山本克典 (樹山本石産, アンコールミュージアム・専務取締役)
 コーディネーター
 石川悠子 (陶芸家, クメール陶芸 YUYU 工房・主宰)
 江口千奈美 (早稲田大学理工学総合研究センター・嘱託研究員)
 小出陽子 (建築家, KNI Design & Network・主宰)
 平井利男 (財) 日本国際協力センター)
 平井里枝 (2005年4月までシェムリアップ在住)



fig.1 西バラライオンズクラブ小学校建設

<その他>
 ・小学校への井戸の寄付
 (チア・ノルの友人より)
 ・クラウ村・後藤小学校建設
 ・小学校へ教育資料を寄付
 (ライオンズクラブより)



fig. 2 村人による村道建設

1998年：工事4km
 2002年：工事2km
 道路の完成により、村の生活はかなり向上しました。道路わきに植えた樹木も順調に成長しています。



fig. 3 「コマキ橋」1998年9月完成

この場所は、以前は板一枚の橋が架かっており、雨期になると村人が行き来できなくなることもありました。
 <その他>
 ・「カジヤマ橋」2000年5月完成



fig. 4 プノンペン芸大生と村人との対話

2004年、アンコール・クラウ村集会所にて村づくりのためのワークショップを開催しました。村人200人が参加しました。



fig. 5 砂岩テーブルの製作風景

JSA 専門家によるボランティア・指導



fig. 6 休憩後小屋での昼食風景

クラウ村に水上の休憩小屋をつくりました。そこに日本から観光に来た知人を招いて、カンボジアの農村風景と地元の料理を堪能してもらうことで、村人の生活を紹介することを試みました。